

# 美術科教育学会通信

1995年12月20日発行 美術科教育学会本部事務局 No. 19  
〒184 東京都小金井市貫井北町4丁目1-1 東京学芸大学  
美術科教育学研究室内 Tel.0423-25-2111(内)2856,2857,2858 FAX. 0423-21-3695

## 学会通信への原稿・記事を募集します

本部事務局「学会通信」担当 柴田和豊

『学会通信』を少しでも魅力的で読みごたえのあるものにしたいと思い、できるだけ努力はしているつもりです。しかしまだまだ理想とは程遠い状態が続いています。ページ数も12ページ位を目標としてはいるのですが、今のところ8ページほどで息切れしてしまいます。歯がゆい限りです。

『通信』を魅力的なものにする方策はいくつか考えられます。まず思いつくのは、内容構成面で複数の目玉になる柱を立て、それを定着させることです。例えば、「研究・実践ノート」「書評・論文批評」「学会・美術教育界の動向」「会員情報発信コーナー」などの枠を設け、それぞれに一定の紙数を割り振ってあげれば、今より充実したものを作るのは難しくないでしょう。但しそれには、会員からの多数の寄稿が期待できるということが条件となってきます。開き直るようですが、「多種多様の原稿が寄せられているのなら」、現時点でももっと良い『通信』が出せているはずなのです。

そこで、多くの魅力的な文章を確保するという視点に立って、対応策を考えていきますと、「学会通信作成委員会」のようなものを作り、『通信』作成の強力な実働部隊を組織するというようなプランが浮上します。多くの人たちが関わることでエネルギーは何倍にもなるでしょうし、もっとドライにしまえば、原稿が集まらないなら、委員会のスタッフに手分けして書いてもらえばよいのです。仮に委員会の構成を5人としますと、一人あたり2ページで10ページ埋まりです。あとそれに、「新入会員紹介」や「会費納入の案内」などの「いつもの記事」を入れれば12ページも目と鼻の先です。

しかし、組織を新たに作るとすれば、それなりの手続き手順に少なからぬ時間がかかります。そこで私としましては、若手理事・会員による「通信作成委員会」を作って頂ければ一番ありがたいのですが、まずはいろいろな原稿・記事をお送り頂くことで飛躍を実現できればと考えています。いつも何本かの原稿があれば心穏やかに『通信』作りができるのです。目下の『通信』作成や、その封入作業は、はなはだ乱雑な私の四畳半や狭い研究室の中で、2人ほどのアルバイトを交え、自転車操業的に進められています。その様子は、「ほほえましい」というよりも、「滑稽」に映るレベルのものなのです。体制はまだまだナイーブな状態にとどまっています。

ですから、試みにどのような種類の文章でもよいですからお寄せ下さいませでしょうか。中でも熱望しますのは若手会員からの声です。「学会に期待するもの」「学会に入って」というような構えないもので結構です。若い会員からの声は、「出前シンボ」同様、私たちの学会の熱源であると考えています。それに口はばったいことをいいますと、若手会員には、学会を業績作りのための装置という風にだけ捉えるのではなく、何らかの思い入れを学会にもってほしいのです。

少なからぬ人たちが、「学会の現状はマンネリだ」と指摘しますが、学会の活性化は一人一人の会員が声を出していくことによってしか始まらないと思っています。寄稿下さる方は、A4判で40字×45行のフォーマットをお願いします。3～4ページの長文になっても差し支えありません。

## 『美術科教育学会学会史』の編纂

数年前から話題になっていました『学会史』の編纂がいよいよ具体的に動きだそうとしています。学会もすでに20年近くの歴史を重ね新たな展望が必要になってきていることや、学会設立に主導的な役割を果たされた方々が定年で退職され始めていることなどで、過渡期にさしかかっているようです。そこで、これからの指針を見いだすための作業の一環として、学会の軌跡を振り返り、『学会史』を作成したく思っています。構想(案)は以下に記す通りです。ご意見・ご感想がありましたらお寄せ下さい。

◎名称を『美術科教育学会学会史』とするかどうかは、会員に広く尋ねようと思っています。ご提案をお待ちしています。

◎内容の柱は概ね次のように考えています。

(1)学会成立の経緯と問題について

(2)主な事業内容の整理

○大会の足跡

○公開シンポジウム

○研究部会

○学術会議との関わり

○交付された助成金

(3)学会誌『美術教育学』の成果と課題

(4)学会の財政問題

(5)学会の将来展望

より具体的には第18回大会の総会で代表理事から説明し、適当な方に執筆依頼をしていくこととなります。過去を整理するという点で、古くからの会員に多くをお願いすることが予想されますが、将来展望に関しましては、次代を担う若手会員の方たちを書き手として想定しています。

◎『学会史』と並行する事業として、『美術教育学』に掲載された全論文をCD-ROM化する作業も考えています。知の蓄積の共有化を進めることによって、学会の周縁部がさらに拡大されていくことを願っている次第です。

## 会員拡大についてのお願ひ

充実した学会活動の基盤が、安定した会員組織にあることはいうまでもありません。事務体制の円滑化、魅力的な事業企画の立案などのいずれもが、学会の「体力」に左右されるものです。当学会の現状を振り返りましても、「より安定した会員組織を実現し、もっと積極的に活動を展開していきたい」と呟きたくなる局面が多々あります。つきましては「美術科教育学会・入会の御案内」と「人会申込書」を同封させて頂きましますので、多くの方々に入会をお勧め下さいますようお願い致します。なお「案内」「申込書」とも都合で1部しか入れておりませんので、不足分はコピーをお取り下さい。

とはいえ、学会の拡大・充実に向けては他のいくつかの懸案もあると思いますので、併せてそのことも最低限ですが記させて頂きまします。学会の質的向上は学会の「研究の質」に何より関わるものですが、次の二つの事は学会を取り巻く状況として見過ごせないものでしょう。①時間数の削減に象徴される「図工・美術」の危機に学会はどう関わるべきか?(理科教育や技術教育などの積極性に比べて、美術教育の学会の役立たず振りを批判する声は大きい)②私たちの学会の他に「日本美術教育学会」「大学美術教育学会」が並存しているが、そのことのデメリットはないのか?(ごくごく安直に考えると3つの美術教育の学会に会費を収めている人もいるかもしれない)。いずれも総会などで精力的に話し合うべきものでしょう。

## 第18回美術科教育学会《武蔵野美術大学》大会関連のお知らせ

### (1)大会参加費納入のお願い

来る3月27～29日に開かれます第18回大会への参加費の前納は義務付けられては  
いません。しかしながら、大会運営の財政との関係上、予定が確定されている方は前も  
ってご送金して頂ければ幸いです。振り込み票を同封しておきますのでお使い下さい。  
なお、同封の振り込み票で「学会年会費」は送らないで下さい。

### (2)情報コーナーへの参加者の募集

第18回大会において、美術教育に関する様々な情報を学会員がお互いに気楽に交換し  
合える場を、昨年に引き続き下記の要領で設けることになりました。個人ないしグルー  
プでそれぞれの情報を発信したい方はお申し込み下さい。

各部会も、この機会を利用して、何らかの工夫をした存在アピールをされたらと思いま  
す。少なくとも質問受付の場を提供されたいかがでしょうか。また科研費の取得状況  
などの紹介も期待します。

○期 日 3月27(水)～28日(木) 大会第1日目～2日目

○時 間 帯 27日：14時頃～17時頃

28日：10時頃～16時頃

○場 所 大会会場：12号館・地下1Fホール

○参加資格 学会員+賛助会員で大会参加費払い込み者であることを原則とします。

○条 件 ①1名または1グループにつき、教室用机を2～3台お貸ししますので、  
それを著書・論文などの展示や販売などのために利用して下さい。(販  
売の場合はご自身で管理して下さい。)

②ビデオ・スライドなどのAV機器は用意しません。

③各自のコーナーの飾りつけ及び取り外しは、各自で責任をもって行って  
下さい。パネルの設置の可否はコーナーの周囲の状況にもよります。

④各コーナーの開設時期は上記時間帯の範囲内ならばいつでも可としま  
すが、28日の昼休み時間には全コーナーに開設して頂きます。

○申し込み 1995年3月8日(金)までに、次の提出物を、下記の宛先までお送り  
下さい。

①参加申し込み書：形式自由(内容・規模を記してください)

②官製葉書1枚：参加申し込み書の受領通知・連絡用。申し込み者(責任  
者)の郵便番号・住所・電話番号・氏名をご記入のうえ、同封して下さ  
い。

③申し込み・問い合わせ先：

〒187 東京都小平市小川町1-736

武蔵野美術大学 村上暁郎 研究室

TEL.0423-41-5011

### (3)宿泊について

先にもお知らせしましたように、大会事務局では宿泊の斡旋をいたしません。別紙に武  
蔵野美術大学付近のホテル案内(ホテル名+地図)を記しておきましたので、直接ご自  
身でホテルに連絡し、交渉して下さい。

## 《ミニ・インフォメーション》とお願い

- 工作・工芸領域部会が動きだしています。興味をお持ちの方は、上越教育大学美術科の西村俊夫先生にご連絡下さい。この部会の特筆すべき点は、若手会員のエネルギーが結成の原動力となっていることです。連絡先は下記の通り。

〒943 上越市山屋敷町1 上越教育大学学校教育学部 Tel.0255-22-2411

- 学会大会への学部生の参加について優遇策を検討しています。規約では学部生は会員にはなれませんが、将来の有力な人材ですので、大会参加費を大幅にディスカウントし、参加を促せるよう便宜を図りたく思っています。思い切って、発表概要集などの資料フルセット付きで1,000円にしてはと思っていますが、いかがでしょうか。その節はPRに精々と協力下さい。

- 学会の活性化に向けて、役員会などで様々の案を検討しています。その一つに「優れた研究成果、研究・実践活動に学会賞を出しては」という意見があります。副賞に貰い甲斐のある奨学金でもセットできれば魅力的なものになると思うのですが、それにはやはり学会の財政基盤が関係します。あるいは、精神的な激励だけを意味する賞でも会員諸氏は意義を感じて下さるのでしょうか。どうでしょう。

- 同じく活性化の一案として、会員の中から幾人かの講師を選び、講師の問題提起を受けて参会者全員で議論するという「ワークショップ」のような機会を、大会で行ってみるのはいかがでしょうか。簡単にいえば、講師の人たちに日頃の授業・講義・演習などを繰り広げて頂くのです。大会発表も、学会誌への投稿も「未発表の内容に限る」となっていますが、基本的な問題は「何度も何度も繰り返して」語りあう必要があると思う故にです。

- 新入会員の方々

牛塚和男（佐賀大学）、大橋功（仏教大学）、笠木日南子（千葉大学院生）、小平廣幸（駒ヶ根市中沢小学校）、笹原浩仁（行橋市延永小学校）、鈴木三朗（名古屋市川名中学校）、高石淳一（九州産業大学付属高校）、高森順子（千葉大学研究生）、中村喜代子（千葉大学院生）、春田真理子（東京芸術大学院生）……万漏れている方がいらっしゃればお知らせ下さい。

- 9月20日に函館で行われました公開シンポジウムの報告書『地域文化と美術教育』の入手連絡先をもう少し詳しく記しておきます。希望者は下記の長谷川総一郎理事の方へご連絡下さい。

〒932-02 富山県東砺波郡井波町本町4-3 Tel.Fax. 0763-82-0023

- 会員調査カードへの記入を重ねてお願いいたします。前回の「通信18号」でお知らせしましたように、会員名簿の改定を予定していますので、まだ返送されていない方はご面倒でもご記入の上お送り下さい。記入用の葉書を無くされた方は、官製葉書に氏名・生年月日・住所・勤務先もしくは所属先をお書き下さい。締め切りは1月10日とさせていただきます。

- 会費納入のお願い

本年度もうすぐ終わります。つきましては会費納入がまだの方は至急お納め下さい。振り込みには、ご面倒でも郵便局備え付けの「郵便貯金総合サービス用」の振り込み通知票をご使用下さい。

【口座番号】10050-64710321

【加入者名】美術科教育学会本部事務局 会計担当 増田金吾

94・95年度が未納の方は6,000円+6,000円の12,000円を、95年度だけの方は6,000円をお払い下さい。なお賛助会員の年会費は20,000円です。